

平成 17 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

2 重点経常研究

- (1) 「水域の生態系保全を目的としたGISデータベースの構築と活用に関する研究」
(継続課題)

[総合評価とコメント]

- 「県として水源環境保全に取り組む」という方向性に合致した研究と考えます。
生態系を把握すること、さらには、生態系への各種影響要因の影響を評価することは非常に難しいことだと認識しておりますので、まずは金目川をモデル河川としてデータベースの構築に取り組むことからスタートするのは妥当なことと思います。研究の進展に伴ってデータベースに採り入れる項目が増えていくことは十分予想されますので、拡張性を念頭においたデータベース構築をお願いしたいと思います。
- また、水域生態系保全という目標に対して、データベース自体ならびにデータベースを構築する課程で得られた知見をどのように活用するのか、あるいは活用できるのか、といったことについてもご配慮をいただきながら研究を進めていただければと思います。
- ・水域のデータベース構築の際①家庭系排水の汚染源分布、②不法投棄ごみの分布(種類、分量)③各地点の景観についてもとりあげてほしい。・市民団体の協力は良い手法なので、今後も継続・拡大してほしい。
- 水生生物保全は、水源地域森林環境保全などと併せて総合的な施策が必要である。
また、県民の関心が高い分野である。GISデータベース化は地理データに様々なデータを盛り込み、視覚的に表示できるため、県民への情報提供でも活用できる。
データベースは継続的な運営管理が必要であり、さらなるデータの充実も求められる。散漫にならないよう対象を絞って、実効的なデータを集積して行ってほしい。
- 生態系保全のための1つの指標としてアユとその餌となる藻類を選んで、非常に広範な領域を対象として、調査・研究を進められたことは、全般としては高く評価されます。ただ、指標としてなぜアユを選んだのかについて、もう少し明確な説明がほしいところです。
また、タイトルが非常に大きいのですが、アユだけで生態系全体を表すのには、少し無理があると思います。今後、指標を他の生物にまで広げるのか(これは大変すぎると思いますが)、発表の際に、タイトルに副題(例えば「アユと藻類を指標とした・・・」等)を付けてタイトルを少し絞るなどの工夫が望まれます。
- 神奈川県全域を対象とする研究は、もとより必要不可欠なものと言い得るが、一方では、本研究のように地域を限定し詳細な環境データを集積する調査研究意義も小さくはない。
特に、水域の生態系を研究する場合には、本研究のように地域住民との連携を当初計画から組み込み、地域に密着した研究体制を構築する必要性は高い。行政の環境研究の進め方としての新しいモデルとなり得ると考えられる。

調査項目としては、普遍的な水温も必要であるが、より踏み込んだ項目を生態学見地から選定できないかとの思いも残る。アユに加えて別の水生生物も加えられないだろうか。

- 河川をGISで扱うユニークな研究と考えます。GIS化したデータの活用方法をあわせて検討することが次につながると思います。住民への情報提供にとどまらず、河川生態系の保全戦略づくりなどの施策対応、など。

(数値的評価)

★評価者6名(一部の項目は5名)

<評価の内容>	<評価項目>	<ランク>				
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5(3人)	4(3人)	3(0人)	2(0人)	1(0人)
	○優先性	5(3人)	4(3人)	3(0人)	2(0人)	1(0人)
計画の立案と実施法	○研究内容	5(2人)	4(3人)	3(1人)	2(0人)	1(0人)
	○計画の妥当性	5(0人)	4(5人)	3(1人)	2(0人)	1(0人)
研究の進捗状況	○進捗状況	5(1人)	4(4人)	3(0人)	2(0人)	1(0人)

※ランクは、5点満点の評価で5(優)~1(劣)